

心輝け 子どもたち！

☆研究発表会のお知らせ☆

1月26日(水) 15:00～

教育館 講堂

ぜひご参加ください！

人権週間に道德の授業を！

12月4日から10日の1週間は、「人権週間」として位置づけられています。道德では、人間尊重に関する指導内容として、「思いやり」、「信頼・友情」、「男女の協力」、「公正・公平」、「正義」、「国際理解と親善」等があります。これらの指導内容の資料を使い、各学級の実態に合わせて実践するとよいと思います。下記に指導のポイントを紹介いたします。

小学校3年 「おばあさん」2-(2)思いやり・親切
出典：明るい心3年（県教振）

【資料の概要】 主人公の「わたし」は、混んだバスの中で大きな荷物を持ちふらつくおばあさんに気づきますが、周囲の雰囲気からなかなか席を譲ることができずにいました。しかし、難儀をしている姿を見過ごすことができず、最後には席を譲るという話です。

【指導のポイント】

多くの児童は、困っている人を見かけたら助けなければということにはわかっています。しかし、自分の置かれた状況や周囲の雰囲気から、また、自分一人が助けることもないなどという思いから声をかけられないことがあります。

そこで、主人公が、「おばあさん！」と大きな声を出したときの気持ちについて話し合わせることで、ねらいにせまることができます。そして、お年寄りだけでなく、年下の子や友達に対する「思いやり」「親切」へと広げていくようにしたいと思います。



中学校2年 「人間の弱さと強さ」4-(3)公正・公平
出典：明るい人生2年（県教振）

【資料の概要】 主人公周作は、親の会社内での地位の違いから、相手に自分が見下されているというつらい気持ちを味わいます。また、信頼していた父親が、地位の高い者に対して、卑屈ともとれる姿になるのを見てショックを受けます。しかし、主人公は、公平な社会を目指して一歩を踏み出していくという話です。

【指導のポイント】

時代背景を押さえたうえで、親の地位や生まれにより差別を受ける主人公の怒りに十分共感させます。また、尊敬していた父親が、権力に屈する姿を見る主人公の悲しい気持ちにも共感させます。

しかし、周作がもつ能力を認め、公平に扱おうとしてくれたことのすばらしさを感じ取らせることにより、公平な態度をとることの大切さをつかませることができそうです。そして、だれもが大切に扱われる社会を築こうとする意識を高めていきたいです。



授業研究「いのち」の大切さを学ぶ道德教育

10月22日(金)に、テーマ研究部会の授業研究が行われました。

主題名「ホタルの舞う里」 3-(2)
自然愛・環境保全
出典：明るい心 5年 補充資料
(県教振)

本実践に至るまでに、他教科等の学習や体験活動と、道德の時間とを関連させた「関連プログラム」を作成し、実践を行いました。

① 総合的な学習の時間『いのち』をありがとう

② 道德『いただきます』ということ

③ 飼育活動(理科の学習の延長)

④ 社会科「わたしたちの生活と工業生産」

⑤ 道德(本実践)



〔飼育してきたナゴヤメダカを提示している様子〕



心のアンテナ

学校と家庭・地域社会との連携について

正木小学校長 茅原 繁夫

子どもたちは、社会や集団とのつながりの中で育まれていきます。したがって、その意味において、学校と家庭、学校と地域社会との連携が重要であることはいうまでもありません。新学習指導要領でも、道德教育推進上の配慮事項として、家庭や地域社会との共通理解、授業の実施、地域教材の開発や活用、保護者や地域の人々の積極的な参加や協力など、相互連携を図ることの必要性が述べられています。

では、学校と家庭・地域社会との連携は、具体的にどのようにすればよいのでしょうか。下記の①～③にまとめましたので、参考しにいただければ幸いです。

①「学校・学年だより」を効果的に活用する。

道德の授業で出た児童の感想等を載せるだけでなく、もう一歩進めて、「学校・学年だより」に保護者欄を設け、保護者からの意見や感想を集約し知らせると、学校と家庭との相互理解がさらに促進すると考えます。

② 公開授業を効果的に活用する。

道德の授業を公開した後、教師と保護者が話し合う場を設けたり、話し合われた内容を学年だより等で各家庭に知らせたりして、親子や家族で話し合うよう働きかけます。学校と家庭が連携するうえで効果があると考えます。

③ 学校行事や授業への参加と協力を促す。

学校行事に、保護者や地域の人に積極的な参加を促します。参加型の行事を企画することにより、児童と保護者・地域の人々が共通体験を通して相互理解を深めることができます。また、道德の授業に地域の方や保護者をゲストティーチャーとして招くことも効果的です。

子どもたちの人的・物的環境に十分配慮して、家庭や地域社会との連携を進めていくことが最も大切であると考えます。